

会 員 各 位

公益社団法人 埼玉県理学療法士会
選挙管理委員会委員長 工藤 昌弘

お知らせ

平成 27 年 5 月 15 日をもちまして役員の立候補受付を終了いたしました。その結果、立候補者は以下の通りとなりました。きたる平成 27 年度定時総会において役員の選任が行なわれますが、定款第 22 条の規定により以下のようになりますので予めご了承願います。

1. 会長・理事の立候補者はいずれも定数内で全員無投票当選となります。
2. 監事については定数に満たないため、理事会より推薦候補者を受け付けます。
3. 理事については定数内ではありますが、理事会より追加 3 名の推薦候補者を受け付けます。
4. 理事会より推薦候補者を受け付けましたらこのお知らせを更新して報告いたします。

立 候 補 者 広 報 1

《 会 長 立 候 補 者 》

清宮 清美

埼玉県総合リハビリテーションセンター

〈 立候補趣旨 〉

平成 23 年度より埼玉県理学療法士会会長を拝命し、皆さまのご協力により二期に渡り、任期を努めることができました。当初は公益社団法人への移行という変遷の時であり関係各機関との調整が多くありました。平成 25 年度より埼玉県地域リハビリテーション体制整備事業に参画し、日本理学療法士協会の方針とする地域包括システムの推進とあわせて、埼玉県理学療法士会としての体制を整えているところです。また、新法人として事務・財務機能の充実が欠かせないところであることから会計システムを導入しました。

これからの理学療法士業界を担う若い世代の方々に、協会や県理学療法士会の必要性を理解していただけるよう、活動を継続し再び会長に立候補いたします。また、保健・医療・福祉の様々な領域、特に作業療法士会や言語聴覚士会と力を合わせて埼玉県内のリハビリテーションの充実に努めます。皆さまにおかれましてもご協力のほどよろしくお願いいたします。

立候補者広報 2

《理事立候補者》

原 和彦

埼玉県立大学

〈立候補趣旨〉

私は平成23年度から2期、理事、副会長を勤めさせていただきました。特にこの2年間は、27年度介護報酬改定と地域包括ケアシステム構築に向けた取組が他の職能団体においても重点事項となっていて、地域の保健医療と福祉関連の組織、団体、機関が連携して対応することが望まれていました。しかし、理学療法士ができる支援の枠組みや仕組み作りは今なお未完で進行形であり、少しずつその形と機能を変えつつあります。特に介護予防や健康寿命の延伸、サービス利用者の生活を豊かにする機能向上のみならず、地域住民を主役とした共生社会の仕組み作りを視野にいれた理学療法士の貢献活動が求められています。また現状の医療や介護における課題解決にはわれわれの職種は必要です。そこで是非ともこれら理学療法士が行うべき課題解決に向けて会員の皆様のご協力をいただきながら、本会の理事としての責務を果たしたいという再決意で立候補いたします。

河合 麻美

さいたま赤十字病院

〈立候補趣旨〉

この度、理事に立候補させていただきました河合麻美です。2年前に初めて理事に就任し、これまでの会員、一部員という立場からの激変かつ貴重な機会となりました。この2年間広報局長として活動してきましたが、県士会ホームページのリニューアル、メルマガ発行開始、理学療法週間企画の変更など、公益社団法人となり進化した埼玉県士会の変化に携わることが出来ました。もし私が再度理事へ就任させていただいた暁には、より県民の皆さまに身近な存在としての理学療法士のPRや、会報・広報誌を通して約4000人の会員同士の顔の見える関係作り、7月に開催される理学療法週間全国一斉キャンペーン企画の成功、さらに自身が育児をしながら母として活動している立場から、働く女性&男性理学療法士が様々なライフイベントを通してイキイキと働くことを目指した視点で県士会活動に取り組んでいけたらと思っております。皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。

細井 俊希

埼玉医科大学

〈立候補趣旨〉

平成23年度より4年間、教育局長を務めてまいりました。部長や部員の方々をはじめ、多くの方にお世話になりながら、時には新しい取り組みを実施し、その結果、会員の皆様に有用な研修会ができたのではないかと考えております。

現在、理学療法士を取り巻く環境の変化は大きく、また国民の皆様からの期待も大きいと思います。埼玉県理学療法士会は日本理学療法士協会と協力しつつその期待に応えていかなければなりません。そのためには、時代の流れに応じて柔軟に対応できる組織づくりが不可欠と考えます。会員の皆様方の声を聞きながら、理事会や総会で意見を述べ、より良い組織づくりに努めていく所存です。いろいろと問題は山積しておりますが、ひとつひとつ丁寧に話し合いながら、かつ迅速に解決していきたいと思っております。

皆様のお力添えのほど、何卒よろしくお願いいたします。

立候補者広報 3

《理事立候補者》

南本 浩之

春日部厚生病院

〈立候補趣旨〉

この度、埼玉県理学療法士会理事に立候補致しました南本浩之です。高齢者が、急増する中、理学療法士の活躍は、医療保険から介護保険領域へと急速に広がりを見せています。医療介護連携の視点では、シームレスなリハビリテーションを提供する制度の構築が必要です。また、地域包括ケアシステムにおいては、理学療法士がリーダーシップを発揮できるよう、より地域で活躍出来る制度が必要と思います。これらを実現するには、様々な視点と多様な努力が求められると思います。その一つに、より地域活動を活性化していくことが、必要と考えております。地域における予防から治療、そして終末までのリハビリテーションの展開は、地域の理学療法士で力を合わせ行っていくことが重要と考えています。理学療法士を必要とする地域の人々に気軽に利用して頂ける様な、使いやすい制度が必要です。この新たな制度作りの為に、お役に立てればと考え、立候補致しました。

望月 久

文京学院大学

〈立候補趣旨〉

埼玉県理学療法士会の副会長を2年間務めさせていただきました。その間、第49回全国学術研修大会、地域包括ケアに向けての対応などを経験させていただき、埼玉県士会の皆様の力強さを何度もみてきました。平成27年度は、埼玉県士会員も4,000人を超えると予想されます。公益社団法人としての社会性や理学療法士協会の方向性を考慮しつつ、個々の会員の方々にとって頼れる存在としての埼玉県士会をつくっていく必要性を感じています。

水田 宗達

埼玉県総合リハビリテーションセンター

〈立候補趣旨〉

引き続き埼玉県理学療法士会理事に立候補させていただきました水田宗達と申します。私はこれまで埼玉県理学療法士会で総会運営部、庶務部そして事務局長と貴重な経験をさせていただきました。このような経験の中で士会活動は私たちが理学療法士として仕事をする上で非常に重要な活動をしてきていることを痛感し今後も微力ではありますが何かしらの手伝いができればと思っております。事務局長の2年間では2名の事務員さんと部長、部員さんらと共に3700名ほどの会員管理や多くの事業をサポートさせて頂き、改善すべき点はできるだけ取り組んできたつもりでおります。今後さらに会員数が増えることや地域包括ケアシステムの構築における活動が活発化していくことなどが予想され事務局の機能強化が求められます。微力ながら今までの経験を生かして引き続き埼玉県理学療法士会の活動を支えたいと思っております。よろしく願いいたします。

立候補者広報 4

《理事立候補者》

本宮 光信

川越リハビリテーション病院

〈立候補趣旨〉

埼玉県理学療法士会理事に立候補させていただきました、川越リハビリテーション病院の本宮光信と申します。私は埼玉県理学療法士会で財務局会費管理部に8年間在籍し、その後財務局長としてこの二年、県士会の活動に携わらせていただきました。理事とならせていただいたことで、これまで分からなかった県士会の多岐にわたる事業や理事の皆さんの活動を知り、微力ではありますが皆様のお役に立てればと思い、今回再度立候補させていただくに至りました。

財務局では昨年度、決算作業の効率化や県から求められる決算書式提出の為に会計システムの導入を図りました。部員の皆様や事務員さんの協力をいただきながら作業を行っておりますが、まだまだ業務修正を行っている段階であり、引き続き財務局長として業務を行っていければと考えております。これまでの経験を活かし、県士会の活動を少しでもサポートできればと思いますので、宜しくお願い致します。

原嶋 創 (東部ブロック理事)

介護老人保健施設プルミエール

〈立候補趣旨〉

平成23年度より2期4年間、東部ブロック理事を務めさせて頂きました。東部ブロックでは、①顔の見える関係作り、②理学療法士としての質の向上、③一般県民への啓発活動、④我々の身分を守るための活動の4つを柱に活動して参りました。また、会員増加に対応するためエリア毎に組織化を推進して参りました。

4年間の総括としては、エリア長の職が確立し組織化ができたこと、東部ブロック運営委員としての協力者が増えたことによりエリア活動が充実したことが挙げられます。また、研修会・交流会事業のみならず、一般県民への啓発といった発想がエリア長から提示され、商業施設で啓発活動を行えたことは、新たな視点が加わったと感じています。

今後の活動としては、各市町村の地域包括ケアシステム推進に対応するため、①エリア活動を市町村レベルでの活動に移行していくこと、②市町村レベルでの組織化を促すことを視野に入れながら進めていきたいと考えております。

野田 剛 (西部ブロック理事)

豊岡第一病院

〈立候補趣旨〉

このたび、西部ブロック理事に立候補いたしました豊岡第一病院の野田剛です。平成23年度から西部ブロック理事を務め、2期4年間活動させていただきました。ブロックの細分化は会員数の増加と地域包括ケアシステム構築を見据え、エリア活動から市町村活動の充実へ移行していくと考えられます。

西部ブロックは1000人に迫る会員と、140を超える施設があります。川越と所沢の施設は30を超えますが、5つ以下の市町村も10を数えます。市町村という区切りだけでは活動がうまくいかないと思いますので、医療圏や交通事情など地理的条件を今までよりも考慮したブロック運営をしていきたいと考えております。会員が誰でも運営・参加できるように、「行きたい」「やりたい」と感じられるような、ハードルの低い役に立つ楽しい活動を心がけていきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いたします。

立候補者広報 5

《理事立候補者》

栗原 慶太 (南部ブロック理事)

北里大学メディカルセンター

〈立候補趣旨〉

平成25年7月から1期間、南部ブロック理事を務めさせていただきました。1年目は、エリア単位での活動を推進すべく、運営委員の増員と体制づくりに務め、2年目は、運営システムの強化と南部ブロック全体での会員向け研修会の増加を目標に活動をしました。その結果、平成27年4月現在では、3エリアで50名におよぶ運営委員に協力を得ることができ、平成26年度の会員向け研修会は、計21回開催することができました。もちろん、これは、エリア長をはじめとした南部ブロック運営委員や会員の方々のご理解とご協力があったからこそと認識しております。

あと1期間だけ南部ブロック理事を務めさせていただき、各エリア内での会員同士の連携や協同活動の促進のほか、他職種を含めた地域連携の中で、会員がその役割を遂行し易い環境づくりに貢献していきたいと思っております。ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

横山 浩康 (北部ブロック理事)

熊谷総合病院

〈推薦理由〉

北部ブロックでは、ブロック全体での関わりを保ちながら、如何にしてエリアの活性化を図っていくべきかを考え、スキルアップのみならず、組織率・団結力・政治に対する理解を深めるなどの意識改革や組織化を行って参りました。この度、運営委員一同が北部ブロック理事に推薦いたします横山浩康氏(熊谷総合病院)は、北部ブロックの運営委員としての経験は浅いながらも、その間、補っても余ある積極的な活動を展開していただいております。非常に誠実な人柄であり、北部ブロックの代表として理事を任せるにふさわしい人物であります。また長年、任意研究会会員としてリハビリ専門職のスキルアップにも力を注いでこられました。その経験と実行力は、本会において十二分に活かされるものと確信しております。新ブロック理事である横山氏の活動は、きっと同世代の会員らに刺激を与えるはずで、以上を理由に横山氏を北部ブロック理事に推薦させていただきます。

〈推薦者名〉

飛田 英樹 (埼玉慈恵病院)

谷口 剛俊 (伊勢原たかはし整形外科、元北部ブロック理事)

小峰 美仁 (埼玉医科大学病院)